

御書院番之番

四



内閣文庫	
番號	和 32569
冊數	394 (158)
函號	152 121

内閣文庫			
五	三		和
二	五		
一	九	九	書
二	二	九	
架	冊	號	類

明和元年壬午正月十日

御書院書院御書院

大書院御書院御書院

後百字

改在系

同書院書院御書院

同書院書院御書院

同書院書院御書院

同書院書院御書院

同書院書院御書院

同書院書院御書院

同書院書院御書院

時辰二五款七

時辰五十年十月十日清村山屋金一

古書集小正二七卷二七款七

時辰五十年十月十日清村山屋金一

瑞物二七稿

時辰五十年十月十日清村山屋金一

清村山屋金一

時辰五十年十月十日清村山屋金一

瑞物二七稿

安永元在年十月十日清村山屋金一

時辰五十年十月十日清村山屋金一

清村山屋金一

安永元在年十月十日清村山屋金一

時辰五十年十月十日清村山屋金一

瑞物二七稿

安永元在年十月十日清村山屋金一

時辰五十年十月十日清村山屋金一

安永元在年十月十日清村山屋金一

瑞物二七稿

安永元在年十月十日清村山屋金一

時辰五十年十月十日清村山屋金一

瑞物二七稿

安永元在年十月十日清村山屋金一

刑之端物之端

天明六年十月十日
天明七年十月十日
天明八年十月十日
天明九年十月十日
天明十年十月十日
天明十一年十月十日
天明十二年十月十日
天明十三年十月十日
天明十四年十月十日
天明十五年十月十日
天明十六年十月十日
天明十七年十月十日
天明十八年十月十日
天明十九年十月十日
天明二十年十月十日
天明二十一年十月十日
天明二十二年十月十日
天明二十三年十月十日
天明二十四年十月十日
天明二十五年十月十日
天明二十六年十月十日
天明二十七年十月十日
天明二十八年十月十日
天明二十九年十月十日
天明三十年十月十日

天明六年十月十日
天明七年十月十日
天明八年十月十日
天明九年十月十日
天明十年十月十日
天明十一年十月十日
天明十二年十月十日
天明十三年十月十日
天明十四年十月十日
天明十五年十月十日
天明十六年十月十日
天明十七年十月十日
天明十八年十月十日
天明十九年十月十日
天明二十年十月十日
天明二十一年十月十日
天明二十二年十月十日
天明二十三年十月十日
天明二十四年十月十日
天明二十五年十月十日
天明二十六年十月十日
天明二十七年十月十日
天明二十八年十月十日
天明二十九年十月十日
天明三十年十月十日

寛政八年十月十日

天明六年十月十日
天明七年十月十日
天明八年十月十日
天明九年十月十日
天明十年十月十日
天明十一年十月十日
天明十二年十月十日
天明十三年十月十日
天明十四年十月十日
天明十五年十月十日
天明十六年十月十日
天明十七年十月十日
天明十八年十月十日
天明十九年十月十日
天明二十年十月十日
天明二十一年十月十日
天明二十二年十月十日
天明二十三年十月十日
天明二十四年十月十日
天明二十五年十月十日
天明二十六年十月十日
天明二十七年十月十日
天明二十八年十月十日
天明二十九年十月十日
天明三十年十月十日

予は温奥に於て家古實と云ふ
家書に事あり公其のついでに
御書録例乃其後其後其後其後
今其少抑りて其後其後其後其後

明和七年二月廿日

宝曆八年八月廿日

御書院書松本市山組于嘉永御書院于嘉永御書院

後改至様

明和七年六月廿日

嘉永御書院七月廿日
因書院組御書

明和二年二月廿日

明和二年七月廿日

御書院番松平市三組

年人政富熱飲

小若信組事本在信而取

明和七年秋後城ノ整備事

法被換奉引

安永元在奉分付古為改

天明一區奉分付小川町維

地法有法

呼

天明六年奉分付死

明和四年二月廿日

宝曆三年十月廿二日奉旨

少平次出難熱所

出書院組神谷寺書院書院

出書院書院市市組 高石赤井野八而書院

明和六年三月晦日移入書院書院書院

安永三年二月廿日 出書院書院書院

出書院書院書院

昭和九年十月廿一日

憲法二年十月廿一日

東京市立図書館

長官事務官

書記官

東京市立図書館

局長

昭和九年十月廿一日

東京市立図書館

昭和九年十月廿一日

寛政元年十月廿一日

好秋屋秀年二月廿日

明和二年九月有御旨

山書院苗松平市山組 右 源介九條盛定

山書院苗松平市山組
右 源介九條盛定

明和七年秋代八ノノノ海城の御茶事

安永八年秋代八ノノノ海城の御茶事

安永七年秋代八ノノノ海城の御茶事

天明三年秋代八ノノノ海城の御茶事

天明二年秋代八ノノノ海城の御茶事

寛政三年秋代八ノノノ海城の御茶事

寛政二年秋代八ノノノ海城の御茶事

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

寛政八年三月廿九日
三十二日
寛政八年三月廿九日

明和八年三月廿九日

明和八年三月廿九日
御書院者松平市組番長長井勝金殿

明和八年三月廿九日

御書院者松平市組番長長井勝金殿

明和八年三月廿九日
連して湯物に上物

明和八年三月廿九日
御書院者松平市組番長長井勝金殿

明和八年三月廿九日
連して湯物に上物

明和八年三月廿九日
御書院者松平市組番長長井勝金殿

連り噴飯ニ為り

安永七年四月廿三日

安永七年四月廿三日

安永七年四月廿三日

安永七年四月廿三日

安永七年四月廿三日

天明七年二月廿日

天明七年二月廿日

天明七年二月廿日

天明七年二月廿日

天明七年二月廿日

天明七年二月廿日

天明七年二月廿日

天明七年二月廿日

天明七年二月廿日

天明七年二月廿日

天明七年二月廿日

天保九年正月十日
菅原宗之丞

五七福

天保九年正月十日
菅原宗之丞

五七福

天保九年正月十日
菅原宗之丞

五七福

天保九年正月十日
菅原宗之丞

天保九年正月十日
菅原宗之丞

五七福

天保九年正月十日
菅原宗之丞

天保九年正月十日
菅原宗之丞

天保九年正月十日
菅原宗之丞

天保九年正月十日
菅原宗之丞

天保九年正月十日
菅原宗之丞

天保九年正月十日
菅原宗之丞

菅原宗之丞

天保九年正月十日
菅原宗之丞

天保九年正月十日
菅原宗之丞

菅原宗之丞

明和八年十月廿一日

宝曆十三年九月廿一日

山書院書松平市道

海防局書掛

山書院書松平市道

三百年

山書院書松平市道

改定所書掛

明和八年十月廿一日

書中書院書松平市道

明和八年十月廿一日

緒

明和八年十月廿一日

乃由前書院書松平市道

明和八年十月廿一日

五ノ編

寛政元年正月五日御札
根津乃若部(類次)の事

同奉正月十日御札
中御目(類次)の事

寛政元年正月十日御札
御目(類次)の事

寛政元年正月十日御札
御目(類次)の事

寛政元年正月十日御札
御目(類次)の事

寛政元年正月十日御札
御目(類次)の事

寛政元年正月十日御札
御目(類次)の事

寛政元年正月十日御札
御目(類次)の事

寛政元年正月十日御札
御目(類次)の事

寛政元年正月十日御札
御目(類次)の事

同奉正月十日御札
御目(類次)の事

寛政元年正月十日御札
御目(類次)の事

寛政元年正月十日御札
御目(類次)の事

寛政元年正月十日御札
御目(類次)の事

寛政元年正月十日御札
御目(類次)の事

寛政元年正月十日御札
御目(類次)の事

寛政元年正月十日御札
御目(類次)の事

寛政元年正月十日御札
御目(類次)の事

寛政元年正月十日御札
御目(類次)の事

寛政元年正月十日御札
御目(類次)の事

寛政元年正月十日御札
御目(類次)の事

寛政元年正月十日御札
御目(類次)の事

寛政元年正月十日御札
御目(類次)の事

寛政元年正月十日御札
御目(類次)の事

寛政元年正月十日御札
御目(類次)の事

寛政元年正月十日御札
御目(類次)の事

同奉十月十七日捕捕乃後(高)京(大)

作(嘉)

京(大)京(大)京(大)京(大)京(大)

明永元元年正月

明永元元年正月

明書院書院市正組 三依 遠山三郎女貞

明永元元年正月

明永元元年正月

安永元年七月廿日拜會同(高)京(大)京(大)

天明元元年正月十日致仕

序在旧在病物也

昭和三年十月一日

昭和三年十月一日

中書院省松本市組 七喜石 不谷市十郎清茂

政市在傳り
北前也

昭和七年五月五日

白紙中校之務り

白紙中校之務り

白紙中校之務り

白紙中校之務り

安永上角年序序亦可也

天保八申年十月五日

寛政元酉年九月七日湯島

同年八月廿日湯島の位一庵を築
ある平法を谷に奉儀申ありと云
し

長秋少輔土御門信隆に
申引行に谷に日助の裏に所
楊花と書件治るるに於て
奉りしに正月に日助と福り
まはす法を谷に此の法を奉り

寛政三年正月十日

林義海申ありしに正月十日湯島
湯島三好殿と稱するに正月十日と云

七月十日申ありしに正月十日湯島

勅書にありしに正月十日湯島
りて
同日七日 勅書にありしに正月十日湯島
此の位乃ち湯島にありしに正月十日湯島

同年正月十日

林義海申ありしに正月十日湯島
寛政三年七月十日湯島にありしに正月十日湯島
申ありしに正月十日湯島
此の位乃ち湯島にありしに正月十日湯島
りて

治るる日き二日に其引移屋
料中一々今半取は引因半火
災始者念致を救をるひしに其身
都而のたせおあさか福
寛政九年八月五日
七月朔日辰時一九月朔日辰
と治るる黄令校書後御紙
らまゝに書し徳を授かるる
寛政九年八月五日持筒以
寛政十年八月五日死年一歳

二月廿四日高松收

明和七年二月廿七日

明和七年二月廿七日

山書院書松平市正組 菅原 小林次郎光伴

小林次郎菅原春辨養子
山書院後組菅原菅原の日記

明和七年六月廿日 松平求馬助支配

右永三年二月廿日 山書院菅原井

義儀守組入

明和七年三月廿五日

宝曆七年三月廿五日

中山書院若山系書房藏

三平村紙後助房藏

改頼母

本館具成養子

小菅院知事末老徳師安記

同筆紙後助及弟之口法好子及一上男

安永三年八月廿五日

寛政三年八月廿五日

寛政十三年八月廿五日

昭和七年二月十日

昭和七年二月十日

中書院書本房組 于君 田代 仰 正 英

後部刀

同奉秋後博の巻物也

安永七年秋又海防の巻物也

安永七年正月七日の巻物也

天明六年秋又海防の巻物也

天明六年正月七日の巻物也

命を以て海を渡りて一海を自活

兼令其子孫多存親兄弟之好

寛政下年十月十日

同年十月十日布衣者之免

寛政下年十月十日

寛政下年十月十日

寛政下年十月十日

寛政下年十月十日

好秋七頁 年二十日

好秋七頁 年十月十日

平太夫好秋七頁

清書院若小余安房植言大田元平秋好眼

天徳六年十月十日

天徳七年十月十日

天徳七年十月十日

文化元年 月 日 死 六十五歳

明秋七寅年二月十日

宝曆二年分月同日

中書院書北条女房道三後大井乙三而壯夜

信物昌克抄

小菅信組市橋大膳友記

政宗御書

明秋八年十月十日許書山室島友記

寛政三年十月十日御書山室島友記

信物二子端

同年九月廿七日草麻呂克祐村公小外

信物二子端

明治七年二月十日

明治七年三月五日

御書院書北条忠房守組 三條 大沢市力基軒

小倉左衛門基晴養子

七世法印坊三六郎も死

安永二年三月晦日強村法後首く

梅田倫子に宛てて

同年七月八日又強村法後首く

昭の五日百もくく其令に

安永の申年四月九日先の法後首く

寛政の申年七月三日禊入迎後三京も死

同年三月十日死申中京

明和七年二月十日

宝曆三年十一月廿五日教旨

御書院番少納言房身組三役 徳田平七郎正慶

七郎正慶正慶殿
少納言組番少納言正慶殿

寛政三年正月廿五日信谷右衛門尉徳田正慶

上様よりお尋ねの事にて居候に由候事

寛政三年七月有様入前田安房守支配

寛政三年正月十日徳田正慶殿に由り

御取次り死に由り候事にて居候に由候事

事止り候事格別候事にて居候に由候事

十七日宛候事

寛政六寅年七月十八日奉一葉

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

月十二日辰時
月七寅年六月十日

宝曆六寅年七月十日

中書院書北茶女房兼組若三浦法次郎直行

友宿上血表期妖
普請組神尾常高常高

同奉錄敷城守若重若重

安永元辰年二月廿五日寅時大次郎

上谷幡地院後入地敷若重

同奉秋人持代若重之海保若重若重

安永元辰年二月廿五日辰時海保若重

護忠子

安永元辰年二月廿五日辰時護忠子

同奉條より今より一法條也奉書事
 安永七年三月廿五日其前奉條法條方村より
 列して湯物三と稱す
 同奉條法條乃警備次第及奉書事
 法條式と号す(八江府ありし事)
 安永五年奉條より今より一法條也奉
 書事
 天明二箇年正月八日行りて一法條也
 奉書事
 天明六年奉條より七日其の法條方村より
 列して一法條三と稱す
 同奉七年十月廿五日其の法條方村より

金澤ありて實法あり
 同奉秋後條乃警備次第と奉書事
 方村支記と稱す
 天明七年十月廿五日其の法條方村より
 列して一法條三と稱す
 寛政元年正月廿五日其の法條方村より
 奉書事
 同奉七年十月廿五日其の法條方村より
 列して一法條三と稱す
 寛政三年正月廿五日其の法條方村より
 湯物三と稱す
 寛政八年正月廿五日其の法條方村より
 列して一法條三と稱す

享和元年六月廿五日
京都府京都市中區清水町
小川之錫物屋(編り)

明和七年七月廿日

明和七年六月廿日

津書院若北茶屋房守組 若北 右屋橋次郎春

若北家藏

小菅屋細茶屋若北傳次郎

安永元年六月廿五日
群青山堂為文記

天明元年六月廿七日
群青山堂為文記

明和七年七月言

宝曆十三年七月廿二日亥時

御書院書院第壹房書院

水野新節元極養子
出當後継書院第壹房書院

水野基元節元著

改新公節

明和八年七月廿二日亥時

安永元在年十月廿日

安永元在年十月廿日

山書院書茶安房身組

二千 河野景常御成

権持の御奉養子

善法親有馬奉養子

安永元在年十月廿日清村景常之孫物

女と揚子

安永元在年十月廿日清村景常之孫物

安永元在年十月廿日清村景常之孫物

女と揚子

安永元在年十月廿日清村景常之孫物

安永元在年十月廿日清村景常之孫物

十有月、洋海、一日、大梅乃、万、其、
後、城、築、築、中、の、事、也、

安永九年正月十日使者

同、年、十、月、十、日、布、衣、者、と、名、す、

天明二年正月十日、夜、大、梅、乃、城、

進、子、大、梅、乃、川、河、邊、に、雷、火、を、奏、上、

たり、甲、告、り、り、り、り、り、り、

廿、日、急、に、大、梅、乃、事、を、奏、上、の、所、に、

及、び、弟、を、(天、作、を、之、社、旨、清、教、院、

黄金、殿、と、稱、り、十、月、中、旬、頃、に、梅、乃、

寛政三年正月十九日、梅、乃、清、教、院、を、
清、酒、吸、物、と、稱、す、

寛政四年正月先、う、改、

寛政六年正月、大、梅、乃、梅、乃、

寛政三年正月十日、致、仕、

安永元夜年十月十日

好報八卯年分の家格

中書院若菜屋房兼組千代 春日豊三郎行雅

惣五郎行兼養子
出番信組長若菜屋房兼組

改九湯の

安永元夜年十月十日 御田美濃守支配

安永元夜年十月十日 有海津初也等

左記の行雅等はもとより書物傳授後傳等と
不審有きおとて教書せし書物家
女もこの書物(對)にこのをみる中に
一間と云う所の記帳を以て又も書物に
居る人等と

養父用... 養子... 實子... 一族... 系... 心... 事... 於... 統... 寛政八年七月廿九日

安永元年七月廿九日

中書院書少丞房直... 台名 町野傳金三新

安永元年七月廿九日

寛政元年七月廿九日

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

安永元辰年十二月廿日

明和八寅年十二月七日寫

清書院書北条安房守領八百九十名在書院利隆

後長門守

小膳利長卷子
小膳後領市橋大膳子宛

安永己未年十二月廿日進物書

安永己未年十二月廿日進物書

すう〜を物番と存免

安永七年秋後領の宿直如云々

天明六年秋後領の宿直如云々

後領如云々

寛政三亥年十二月廿日宿直如云々

七月廿一日
寛政九年九月廿九日

寛政九年八月廿九日

同月廿六日

寛政九年二月廿九日

寛政九年九月十九日

林

同月廿六日

同月廿九日

同月廿七日

同月廿九日

同月廿五日

享和二年八月廿九日

安永元酉年七月廿日

明和三年八月廿日

中書院書小系安房守組 高外九郎山雄

内記正肥起外
出書後組高外守文記

安永三年七月廿日付大の法鏡法利小

連りて時辰三と揚り

安永三年七月廿日付大の法鏡法利小

夕あり身利を多れく正有常中書院

三と時辰三と揚り

安永三年七月廿日付大の法鏡法利小

列りて時辰三と揚り

安永五年八月日光江後島隠入社
と云々後進物者といふ

同年十月廿四日草鹿江後島村より連り
瑞物と云々揚る

安永六年九月廿六日日光江後島村より
連りて瑞物と云々揚る

安永九年正月廿七日日光江後島村より
連りて瑞物と云々揚る

安永十年正月廿七日日光江後島村より
連りて瑞物と云々揚る

安永十一年正月廿七日日光江後島村より
連りて瑞物と云々揚る

天明二年正月廿七日日光江後島村より
瑞物と云々揚る

天明三年正月廿七日日光江後島村より
連りて瑞物と云々揚る

天明四年正月廿七日日光江後島村より
連りて瑞物と云々揚る

天明五年正月廿七日日光江後島村より
連りて瑞物と云々揚る

天明六年正月廿七日日光江後島村より
連りて瑞物と云々揚る

天明七年正月廿七日日光江後島村より
連りて瑞物と云々揚る

江戸中上り

同奉九月廿六日大納言院の村に連り
時辰に帰る

同奉十月九日常毛院に馬代に帰る

天保申奉十月九日給付に帰る

明日日官中上り去る

寛政元酉年正月十日場始に村に

連りて時辰に帰る

同奉三月廿五日黄金に帰る

寛政二酉年二月九日大納言院の村に

連りて時辰に帰る

同奉三月廿五日給付に帰る

寛政三亥年正月廿五日金掛に帰る

瑞物に帰る

寛政四子年正月十日給付に帰る

瑞物に帰る

寛政五丑年正月十日金掛に帰る

瑞物に帰る

寛政六寅年正月十日給付に帰る

瑞物に帰る

寛政七卯年九月十日金掛に帰る

同奉十月十六日布衣者に帰る

寛政八辰年正月十日給付に帰る

享和元年

同奉十月十六日布衣者に帰る

安永元在年十月廿日

安永元在年十月廿日

安永元在年十月廿日

安永元在年十月廿日

所書院前北條安房守組君名 佐久間修理孝由

改元傳

安永元在年十月廿日

安永元在年十月廿日

安永元在年十月廿日

安永元在年十二月

天保七年正月五日

常陸の雄藩 養子

小指後祖青也室馬也死

御書院告北茶安房守組 音石 大澤 甚之助 雄藩

安永元在年正月十日 青田 雄藩 乃 對 小

列 時 辰 之 揚 乃 上 百 年 之 英 令

二 揚 乃

安永元在年正月十日 大 的 法 堂 乃 對 小

連 之 時 辰 之 揚 乃

安永元在年正月十日 青田 雄藩 乃 對 小

候 之 時 辰 之 揚 乃 上 百 年 之

寛政二年正月十日

寛政三年正月十日

寛政四年正月十日

寛政五年正月十日

寛政六年正月十日

寛政七年正月十日

寛政八年正月十日

寛政九年正月十日

寛政十年正月十日

寛政十一年正月十日

寛政十二年正月十日

寛政十三年正月十日

寛政十四年正月十日

寛政十五年正月十日

寛政十六年正月十日

寛政十七年正月十日

寛政十八年正月十日

寛政十九年正月十日

寛政二十年正月十日

寛政二十一年正月十日

寛政二十二年正月十日

寛政二十三年正月十日

寛政二十四年正月十日

寛政二十五年正月十日

惟之時收之編り同の七年二月青
又兼之書之時收之編り乃の書
〜黄金校之編り
寛政七年二月十日武部清忠等
御物之編り

同七年二月青表書町乃絶影火山なり
其後令二年あまのり

寛政十年二月九日死平三系

安永元年二月廿日

明和三年二月廿日

九門御書

山書院書北系安房守組 安永元年九月廿日

政修

安永元年二月廿日

安永七年秋

天明六年

同年
水災

...

享和三年二月十日

但馬守支配

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

安永元年正月十日

安永元年正月十日

中書院書記松平房直音名松平友三郎勝久

御殿侍松平房直

松平友三郎勝久

安永二年正月十日

同前上元正月十日

安永二年正月十日

安永元在年十月廿日

明和六年二月廿日

中書院書北条女房組音後 太田仇十郎英正

政安在川

七卷三頁其初
北条信賴青山主馬守記

寛政十年年九月廿日有太田信賴其村迄
列して其後三編り

寛政十一年三月廿日有太田信賴其村迄
列して其後三編り

去月廿四日届

安永元年 去月廿四日

好記 遠年 去月廿四日 回家格

御書院 吉北 宗安 房房組 三音 安藤 伊右衛門 定次

書院物 延定 英子

書院組 順吉 小書院

安永元年 去月廿四日 光乃 法信 中 随云

安永七年 秋 津波 城乃 護 湯 小 弟

天明三年 秋 津波 城乃 護 湯 小 弟

二 西 組 云 湯 丁

天明二年 秋 津波 城乃 護 湯 小 弟

寛政七年 去月廿四日 去 湯 當 流 鑛 湯 光

所 予 湯 物 延 云 湯 丁

安永六年正月書

宝曆四年八月十日書

中書院南系安房身組上書 久松其右衛門

安永六年正月十日書

小書院組大信長年正月

因年正月十日進物書

安永六年正月十日進物書

番書

因年正月十日進物書

及之福

安永六年正月十日進物書

福物及之福

安永七年十月廿三日
明の青島に於て黄泉に帰る
去附の多秋後彼の秘蔵の書を先陳
彼に勢也

寛政元年十月廿九日

寛政元年十月廿九日
寛政元年十月廿九日
寛政元年十月廿九日

安永七年十月廿三日

安永七年十月廿三日

中書院書北条安房様
新編忠節巻子
昔は祖の山守に記

改定九節
文在後

安永七年十月廿三日
列の崎坂に結り

同永七年十月廿三日
同永七年十月廿三日

同永七年十月廿三日
同永七年十月廿三日

同永七年十月廿三日
同永七年十月廿三日

同永七年十月廿三日

寛永七年九月後始に善く思ふ事

事一と勢

去月二日年九月廿七日申時迄の村小
列一々諸物に之備る

去月廿九年十月廿七日申時迄の村小

取替すことなし(金百石)の村小

同秋後始に善く思ふ事

乃に月廿九年十月廿七日申時迄の村小

去月廿九年十月廿七日申時迄の村小

取替すことなし(金百石)の村小

寛政元年七月廿七日申時迄の村小

取替すことなし(金百石)の村小

寛政元年七月廿七日申時迄の村小
取替すことなし(金百石)の村小

安永九年序

安永三年八月七日家信

山書院書北条安房守組 六言 在國六節季承

緒言 季方始叙

山書院組長内藤守重宛

安永九年春の迄守りてくつ々如事
つてそは書以相本家守長徳の組次始矣
相書め方の長見とありつて利起すて
つたふそおあゆるとの對しての如く如事
つたの如く改書するはむらひくそは終と
先ひすく合よそのいふそは受て事成
かりつて奉りしに

安永九年八月廿七日
入官城久三郎支配

同前七月廿七日

父清持前二統の業を以て其子に
之を又承りて之を以て其子に
之を承りて之を以て其子に

寛政二代年七月廿七日

寛政六代年七月廿七日

安永九年八月廿七日

安永九年八月廿七日

天野助市原満

政事録

安永九年八月廿七日

安永九年八月廿七日

天明八年九月廿七日

組次

信長公御書

安永江東奉行分付

明和七年六月宿願

中書院書院奉書房奉題 奉天全助清條

全書院書院奉書房

少若信組信長御書院

安永七年六月宿願

安永七年六月宿願

安永七年六月宿願

此

安永八年六月宿願

此

安永八年六月宿願

寛政八年九月廿九日
寛政八年九月廿九日
寛政八年九月廿九日
寛政八年九月廿九日

安永七年十月廿九日

中書院書林系安房守組三景 天野教馬正信

後助次郎

安永七年十月廿九日

天明元年九月廿九日

天明元年九月廿九日

安永七年十月十九日

御書院書院安房藩

新田藩の御書院に宛て

石尾重高氏宛

後七之御

安永七年十月十七日
三回後と云ふ奉る

御書院書院安房藩
御書院書院安房藩
御書院書院安房藩
御書院書院安房藩
御書院書院安房藩

安永七年十月十九日御書院

同年十月十日布衣者多死

天明七年正月

御代の多かりしに依り諸國の巡察

使を遣はし氏封を撰小治奉り

を命じし所は古國別りし西の御

に極り

元政元四年正月廿九日

宗腹は穢れを致し之を極り

巡視すしは違すしは極り

療すしは違すしは極り

寛政元四年七月十日

牛窓村死年五歳

氏封を附置しし奴僕小治多し

手悲傷ありしありしは極り

の同封を置ししは極り

安永御年十月五日

竹書院書北条安房屋組 言後 竹尾 源平元教

竹書院奉行在屋元貞書

後言奉本

同日入奉南越而深依之歸り書あり

安永御年十月五日

安永御年十月五日

安永御年十月五日

安永御年十月五日

安永御年十月五日

安永御年十月五日

之由來使と行つたは是と云ふ處乃
之由來使と云ふ老と云ふ科は之と云ふ
収と云ふ

寛政に五年九月に日大の法皇が射不
連の時辰と云ふ

寛政六年九月に日大の法皇が射不
連の時辰と云ふ

寛政七年三月に日大の法皇が射不
連の時辰と云ふ

安永六年十月五日

御書院書院茶女房年組三右衛門 萩原式部後雅

御書院書院茶女房年組三右衛門

安永六年十月五日 御書院書院茶女房年組三右衛門

安永六年十月五日 御書院書院茶女房年組三右衛門

天明元年十月五日 御書院書院茶女房年組三右衛門

天明元年十月五日 御書院書院茶女房年組三右衛門

安永六年十月九日

御書院書北条安房守組 百長松助相良

御書院書北条安房守組

後百長

改松守師

同日原米百長と御書院書北条安房守組

安永六年十月九日御書院書北条安房守組

御書院書北条安房守組 百長松助相良
御書院書北条安房守組 百長松助相良
御書院書北条安房守組 百長松助相良
御書院書北条安房守組 百長松助相良

因年秋後城の豊博小第多則小水橋を
いふ事いふ所いふ事あり

豊博小第多則小水橋を
治寛がて因月七日豊博小第を
治寛がて

天明三年正月清澤村治寛を
と楊り

天明三年七月五日大川中馬川治寛
を治寛がて豊博小第を治寛がて

天明六年秋後城の豊博小第を
治寛がて清澤村治寛を治寛がて
因年七月十日清澤村治寛を治寛がて

天明七年正月清澤村治寛を

天明七年正月清澤村治寛を
治寛がて豊博小第を治寛がて

天明七年正月清澤村治寛を
治寛がて豊博小第を治寛がて

天明七年正月清澤村治寛を
治寛がて豊博小第を治寛がて

天明七年正月清澤村治寛を
治寛がて豊博小第を治寛がて

時政ニシテ

寛政九年九月五日

右衛門督齊庭御用

同日勢乃ハ右衛門督ノ御用ニシテ
法被リノ御用ニシテ

同月五日布衣者ノ御用

寛政九年九月五日

將軍家ノ御用

寛政九年九月五日

右衛門督御用

同月五日

乃シテ御用

寛政九年七月廿

御書院書北第

後修物

御書院書北第

寛政九年七月廿

御書院書北第

寛政九年七月廿

御書院書北第

寛政九年七月廿

御書院書北第

寛政九年七月廿

坐敷は後方の小徳として鳥羽田前へ
たすき等小座をして坐敷とせしむる
因奉九月廿七日の御返書に於て
坐敷とせしむる

天明六年正月廿七日清村信賢より
其旨書中申上りて奉答とせしむる

天明六年秋清村信賢より
又清村信賢より申上りて
寛政元年正月廿七日清村信賢より
御物とせしむる

寛政元年正月廿七日清村信賢より
御物とせしむる

天明七年正月廿七日清村信賢より
御物とせしむる

安永六年正月廿七日

中書院書紀 卷之七 御物とせしむる

後奉書

安永七年正月廿七日清村信賢より
御物とせしむる

白銀とせしむる

台帳とせしむる

安永九年正月廿七日清村信賢より
御物とせしむる

天明二年正月廿七日清村信賢より
御物とせしむる

天明七年正月信玄殿遺物
之福方

天明七年正月信玄殿遺物
之福方

天明七年正月信玄殿遺物
之福方

天明七年正月信玄殿遺物
之福方

安永六酉年七月廿

清書院書林安房身祖三夜 兼松九門山明

西川信玄殿遺物身祖三夜

安永七年正月信玄殿遺物
之福方

安永八年正月信玄殿遺物
之福方

安永九年正月信玄殿遺物
之福方

安永十年正月信玄殿遺物
之福方

安永十一年正月信玄殿遺物
之福方

安永七年 奉育月書

安永六年 奉育月二十日

山書院書北米安房書組

二子

德永主膳昌明

後或部

安永四年 福養子

山書院書北米安房書組

安永八年 奉育月書

安永二年 奉育月書

或部

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

安永七戌年六月廿四日

安永御年七月廿四日

御書院古本茶坊屋敷 齋藤 松井源之助儀

榊原信俊侯位奉子
齋藤屋敷在御書院御年九月

安永御年七月

同奉紙懸紙書付書下奉申

天明元年六月廿四日御書院古本茶坊屋敷
列之書付と楊り

天明二年六月廿四日御書院古本茶坊屋敷
列之書付と楊り

天明三年六月廿四日御書院古本茶坊屋敷
列之書付と楊り

天保九年十月廿五日
寛政九年十月廿五日
列之書腹之緒

國事九月廿五日
島村同九月廿五日
為國九年秋後

出處原形
寛政三年九月廿五日
列之書腹之緒

寛政三年九月廿五日
島村同九月廿五日
為國九年秋後

出處原形
寛政三年九月廿五日
列之書腹之緒

列之書腹之緒

安永九年十月廿五日

安永九年十月廿五日

河内院書物取集

河内院書物取集

安永九年十月廿五日

改新

天保九年十月廿五日
河内院書物取集

寛政三年九月廿五日
島村同九月廿五日
為國九年秋後

享和二年七月廿七日

安永九年正月

安永九年正月十日

御書院書札集卷之五 千景 身取 八門 志法

改権之助

権之助志余抄紙
善信知世能修善友死

天保九年正月十日

天保九年正月十日

天保九年正月十日

寛政元年正月十日

天保九年正月十日

天保九年正月十日

瑞吉殿御拜啓

寛政十五年丙午正月有津先地次
東社三宮年二月廿三日拜啓
文記三宮年十月廿五日致仕其科三宮後
七歳

安永九年正月廿日

安永八年正月廿日

伊書院吉村秋泉等題

辛未改題
上書信宿殿御拜啓
荒園長之助定候
政新在門

安永九年秋波瀾乃有集宗弟

寛政十五年七月廿日麻布乃大宛以て

一書所乃越敷大宛

安永九年正月廿日乃如清利

是御年正月廿日乃如清利

是御年正月廿日乃如清利

七歳

寛政九年十月十日
小列しつ時收三上治

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

安永九年十月十日

安永七年八月十日

山書院書林本家守組

百助廣進春字
山書院書林本家守組

山書院書林本家守組
百助廣進

天明二年十月十日

天明二年十月十日
天明二年十月十日
天明二年十月十日
天明二年十月十日

天明二年十月十日
天明二年十月十日

享和元年正月十日庚午

同奉正月十日布衣者(とろ)

享和三年正月十日

有柳川信光

樂信(信光)方治(治)同(同)事(事)有(有)也(也)

享和元年正月十日(とろ)

享和元年正月十日(とろ)

享和元年正月十日(とろ)

享和元年正月十日(とろ)

享和元年正月十日(とろ)

享和元年正月十日(とろ)

享和元年正月十日(とろ)

安永九年正月十日

安永七年正月十日(とろ)

安永九年正月十日(とろ)

清書院古物本家道七郎布衣(とろ)

安永九年正月十日(とろ)

享和元年正月十日(とろ)

享和元年正月十日(とろ)

享和元年正月十日(とろ)

享和元年正月十日(とろ)

享和元年正月十日(とろ)

享和元年正月十日(とろ)

享和元年正月十日(とろ)

寛政九年七月廿三日御書

寛政九年七月廿三日御書
寛政十年七月廿三日御書
不

安永九年二月廿日

御書院書札本家御書
御書院書札本家御書
御書院書札本家御書

寛政九年七月廿三日御書

同書九月廿五日御書

安永九年五月廿五日

安永八年五月廿五日

中書院古物表身組 音名 徳山 徳山 徳山

改正

天保六年五月廿五日

十

同

寛政三年五月廿五日

諸物

安永五年二月廿日

安永八年十月廿日

山書院書札本家録 三頁 被筆流源次自心

被筆流源次自心
著信細松本家録年表記

天明三年十月廿日在坂谷井谷地

翻大かひり

天明三年秋落葉乃若重母弟

天明三年秋落葉乃若重母弟

天明三年秋落葉乃若重母弟

天明三年秋落葉乃若重母弟

天明三年秋落葉乃若重母弟

寛政に五年七月廿日音麻布公漸橋の大夫
之之居也頼大心の中程の今手取と
付賜致

寛政十五年七月廿日音渡邊手取配

安永九年二月廿日

安永九年二月廿日

安永九年二月廿日

安永九年二月廿日

山書院書坊表泉道

三言

録正書院書坊表

政憲

天明六年秋陸奥の右軍中

寛政二十年七月廿日音内政配

寛政二十年七月廿日

安永九年十月廿九日

安永九年十月廿九日

頼母改親若灰

若灰組所川山嶽等五石

中書院書物奉取奉題 三信 柳村多官改恒

天明九年十月廿九日拜入長谷川利市支配

天明七年十月廿九日麻布白浪河敷等所

越前大之長谷川川焼火如露后

法事(一)二(一)三(一)以教大(一)勸(一)七(一)事(一)

及(一)以(一)作(一)之(一)

寛政九年十月廿九日拜入系

天明六年正月十日

天明六年正月十日

至徳門内

書信組外

中書院書松平志摩守組 壬寅 中先十郎 愛勝

改五平次

同奉秋後城に懸掛り

同奉秋後城に懸掛り

同奉秋後城に懸掛り

同奉秋後城に懸掛り

同奉秋後城に懸掛り

同奉秋後城に懸掛り

天明六年九月十日

天明六年九月十日

山書院書林志卷第四 阿倍榮吉中心

改志存傳

堂后門正方起次
書林組門勝控之助次記

同業秋後城乃若坐且第

天明六年九月十日

寛政十年九月十日

天明六年六月十日

天明六年六月十日

高津藩助守房為次

小幡藩助守清五郎

山書院書松本志摩守道 右 右田權藏勝里

同兼秋後城の右京次第

同兼とく 兼成別乃ち全統を以て

弟は金百兩と貸付たり

同兼或別荒井村田村の弟より以て兼成は

支會金百兩分永年支と貸付たり

寛政三十二年七月廿四日 兼成部支配

寛政七年八月廿三日致仕

天明六年年九月十日

天明六年九月十日

勅諭部方故養子

少輔後劍并上被理支死

中書院右大臣志摩守組 三后 青柳大守 忠孝 謹

致勅臣部

同奉秋後城の警備中事

天明六年九月三日 旨の通覧付申上り

増収之緒

寛政三年年十月廿五日 旨の通覧付申上り 諸物之

一編之緒

寛政七年年三月廿五日 旨の通覧付申上り 諸物之

一編之緒

文化以知年三月皆死年五歲

同年三月廿二日劍浦清茂全無瑞物
寬政八年三月皆死年五歲
瑞物之瑞物
享和三年三月廿二日劍浦清茂全無瑞物
列之瑞物之瑞物

天明六年三月十日

天明六年三月十日

九欠之遺書云

上書法祖永野大惟及死

所書既古以奉志願守組言依園山九欠之方

天明十年

國春秋法祖永野大惟及死

寬政八年三月廿二日皆死年五歲

天正六年年行吉

赤坂元年正月行吉

清書院書松平志摩道

長谷川次郎藤

政三年

大坂元年正月
上著得領天野山城守元就

同五月朔日渡城如法(在之渡城)

揚子

寛政元年正月朔日人法(在之渡城)

如系(在之渡城)揚子

寛政三年正月朔日行洲(在之渡城)

如系(在之渡城)揚子

三揚子

寛政三年三月十日奉以高八婚
御所出寛政三年三月十日奉以高八婚

天明六年分付

寛政三年三月十日

寛政三年三月十日

清書院古松志摩屋組番長 坂本太市秀貞

寛政三年三月十日死年

天明六年八月廿四日

寛政九年八月廿四日

中書院書林志卷之五
北田富三郎

北田富三郎
著法祖書林志卷之五

改長庫

寛政七年八月廿四日

天明六年年分女書

天明七年九月廿四日

御書院書松平志摩守組番後内膳士原金右衛門

手紙の懸念
上書後
御書院

同奉秋後海の御書院女書

寛政元年七月廿四日河津基所

麻布築橋の古書中へ頼みふり日記

〜〜余りあふ分と可なり

同奉九月十日河津基所村中連

二編

寛政七年七月廿七日河津基所

らそ〜る時より候之無相川
橋より島村の河海首の女〜
峰收之〜楊る

天明六年年分書

御書院番松平忠房屋領 日藤製茶元堂

新庄屋元徳巻子
手勅 普任屋元徳巻子

因家林檎畑の製湯女弟

寛政七年二月十日後より候て候

村田国八士百有津女等て時取と福り

寛政八年年分書 山台勅之湯女配

天明六年八月廿一日

天明六年七月廿一日

御書院書林志願書 三夜 園田太市由亮

政至略

藤田光政

書院書林内記部文記

寛政四年七月廿一日麻布茶屋の火災より

牛籠に於てありて火に焼けて住居に

敷火のりりく金銀あまのりたる

寛政二所年序月可

中書院書寫校印等組 音名 小河 每吉 康致

百助 康致 筆

中書院書寫校印等組

寛政二所年序月可

寛政二戊年序言

中書院古本校訂部

長年石

阿井慈深傳忠英

平定忠善男初發

東江書院古本校訂部

政二在東月

國本青月言草履法法村小連り

瑞物二編り

寛政八在年言十有六の法法村小連り

連り二編り

寛政十在年言十有六の法法村小連り

三と云小法村同月言言小連り

峰政三と編り

寛政十一年三月廿五日
寛政十一年三月廿五日
流餘湖山寛政十一年三月廿五日

寛政十一年三月廿五日

内書院書寫我修習組
于言不
平出
毫布
親園

平出之助親也養子
西元山書院書寫我修習組

政七之助

寛政十一年三月廿五日

寛政二戌年行司

御書院書面裁縫御守組

經部尚書
唐部尚書
左部尚書
右部尚書
中書省
門下省
兵部
刑部
工部
禮部
兵部
刑部
工部
禮部

函野孫十郎盛興

寛政二戌年十月廿三日

寛政二戌年寅月百

伊書院書部校印習字組 書名天野史傳政方

伊書院書部校印習字組

天野史傳政方

文化十二年三月 日死

寛政二戊午年序言

中書院書面校印書組
列組
三夜板橋七布景久

西本中書院書面校印書組

改印版之物

寛政六寅年因青毛群公口勸書海安配

寛政二戊午年序言

中書院書寫我經賢等祖三後 玉堂元氣高後次

左市成松養子
而中書院書寫我經賢等祖

寛政二戌年七月廿日

中書院書院校録御守組 三音依 松平高次郎忠法

中書院の書院校録御守組

後子音依

後子音依

寛政二戌年七月廿日家格千君不毛と
三音依祖父の老と養子料出給ふ

寛政二戌年七月廿日中書院書

寛政二年十月

山書院書目録後編

山書院書目録後編

後編 抄行學正福

寛政二年十月

寛政二年十月

寛政二年十月

寛政二年十月

寛政二年十月

寛政二年十月

寛政二年十月

連日等後二日揚子

文化二年三月 日死

寛政二年十月廿

御書院書院御任候御組

三后 金森彦清可亮

御書院御任候御組

後土御名

寛政三年十月廿日御書院書院御任候御組
延上揚子

同奉十月野島一子揚子

寛政三年十月廿日御書院書院御任候御組
列上揚子

同奉同月廿七日早鹿湯見迄一子揚子

寛政三亥年九月十日

御書院番御持身組 三音後 本園岩倉御正

清小納言左衛門尉正長

後藤春門

寛政三亥年九月十日 福乃部礼(少政)

舞乃と系神田福乃部礼(少政)

幕中必書とく時辰三と治り

寛政三亥年九月十日 福物(少政)

福物(少政)

寛政三亥年九月十日 福物(少政)

列して福物(少政)

寛政七年三月十日有少金將所と云々
馬と勢し

寛政八年三月十日有少金將所と云々
列して時辰と云々

同奉所亦有時辰と云々
國奉所亦有時辰と云々

寛政九年三月十日有少金將所と云々
列して時辰と云々

寛政十年三月十日有少金將所と云々
列して時辰と云々

寛政十一年三月十日有少金將所と云々
列して時辰と云々

寛政十三年三月十日有少金將所と云々
列して時辰と云々

寛政十四年三月十日有少金將所と云々
列して時辰と云々

寛政十五年三月十日有少金將所と云々
列して時辰と云々

寛政十六年三月十日有少金將所と云々
列して時辰と云々

寛政十七年三月十日有少金將所と云々
列して時辰と云々

文化に弟年十月廿八日歸村後
明の日嘗年あること英令に揚り
文化の辰年十月九日歸村後
祭時より祭の儀し揚物に揚り
是よりして年毎に多し由り思揚
ありつゝ

文化の辰年十月廿八日歸村後
明の日の嘗年あること英令に揚り
文化の己年十月九日文化七年十月
廿一日文化の未年十月十六日歸村後
明の日の嘗年あること英令に揚り
文化十年年二月十日高田の場し

文化十年年

流編馬の村より勢先因其在西海小
早しと英令に揚り
同年十月七日歸村後
英令に揚り
同年十月十日歸村後
同年十月十日歸村後
同年十月十日歸村後

寛政三亥年十月廿七日

津藩院書院校印組三役 水田徳常印

津藩院書院校印組三役 水田徳常印

寛政三三年十月

御書院古御書院御書院

本庄銀久保書院御書院御書院御書院

三行後 志野島吉正齋

後三行 四行後

改行後

寛政三三年九月廿七日皇親清見持齋
列々端物二二端方

寛政三三年九月廿八日皇親清見持齋
列々端物二二端方
此二二同日廿七日又二二二二二二二二二二
寛政三三年九月廿八日皇親清見持齋
列々端物二二端方

列者名ハ二番度之ニ由リテ
此ノ其ノ或レ止リシ生シト恩賜時辰ニ
傳ル亦同日書中ニ書シテ黄令ニ由ル
同奉九月十日田物法免持村ト列シテ
瑞物トシ由ル是ヨリテ堂系持武
ト書スルハ年毎ニ度小持村ト列
必瑞物トシ由ル

文化六七年十月十日瑞物持村ト列
列シテ恩賜ルハ時乃十日書中ニ書シテ
黄令ニ由ル

文化七年十月十日瑞物持村ト列
列シテ時辰ニ由ル時乃十日書中ニ書
黄令ニ由ル

黄令ニ由ル

文化八年十月十日瑞物持村ト列
列シテ時辰ニ由ル時乃十日書中ニ書
黄令ニ由ル

寛政四年七月廿七日

安永四年八月廿日

千本理士師廣隆惣領

中書院番井上岡防舟組千本吉之丞廣隆

善後組同防舟助支記

寛政六年七月廿日有河小納戸

同年九月廿日

長谷川清方(屬)

同年七月十日有布衣若(奉)

寛政七年三月廿日有河小納戸清方
之勢

同年七月廿日有河小納戸清方

法後方外傳之島村國貞并七月
法前也時收三子編之

寛政五年七月廿七日

中書院書并上國防身組書 正以八上而政本

中書院書并上國防身組

寛政五年九月九日雜司公劄

中書院書并法後方外傳之島村國貞

同日昔書為 正時收三子

寛政五年九月十日有書并法後方外傳

於法後方外傳之島村國貞昔書為

正時收三子之原達 中書院書并法後方外傳

大向傳并法後方外傳

寛政六年九月十日

寛政元年十月十日

寛政元年十月十日

寛政元年十月十日

中書院書仙翁老母

重慶侯府

政成邦

寛政八年九月十日

寛政六年十月日

中書院書仙翁老身組 三言後 小東之藏信陽

東江表通書院書仙翁老身

後者三言

寛政六箇年十月日書院者年名是

此三言後之奉旨

因年十月日書院者年名是

此三言後之奉旨

寛政二年十月日書院

寛政六寅年行状奇

山書院古史部老守組 三浦純次御書

大正書院改訂酒本集の直齋書

改伴儀

享和三年正月其日物部山麓の村に

由りて瑞物と云揚り

文化六年十月十日大御法免法村に

列して瑞物と云揚り

文化七年十月廿一日草履法免法村に

に列して瑞物と云揚る

文化十二年十一月廿七日其日其名是と云

三行六日

寛政六道年十月十日

中書院書院右大臣兼大膳御當書信頭藤原

寛政六年十月十日 御座 死 奉 案

寛政六寅年正月十日

中書院書出物老身組 三原 河内 谷 大 仰 附 米

中書院書出物老身組 三原 河内 谷 大 仰 附 米

寛政六寅年正月十日 中書院書出物老身組

三原 河内 谷 大 仰 附 米

三原 河内 谷 大 仰 附 米

文化三寅年正月十日 中書院書出物老身組

三原 河内 谷 大 仰 附 米

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

寛政七年七月十日

寛政七年七月十日

山書院書仙岩為老舟組
二五二 菅原麻子所定富

菅原麻子所定富

寛政七年七月十日

寛政八辰年庚子月廿日

寛政八年十月廿日

山書院古史初老齋主 三宅平康好

三宅平康齋子
山書院古史初老齋主

寛政八夏年序月書

寛政六夏年三月五日書

中書院書生若菜組七右衛門 園田別助善述

志三郎善述於
土著佐組長若菜組

寛政十冬年正月書 御用書生若菜組

若菜組

文化六夏年七月書

寛政八年正月廿一日

寛政八年正月廿一日

上層の経緯を悉く

小若後組の事を知り

中書院吉田宗若等組 三後 伏橋 中書院潜

享和元年二月十九日大の志望乃

村に列して町版を賜ふ

享和二年十月八日拜

寛政八年八月廿一日

寛政三年八月廿一日

所書院者此名而者身組原山年養子皆依小善信組有部之統及記井出幸次郎

文化十三年八月廿一日

寛政八年六月日

寛政七年七月五日家格

城経原物御宗家養子

上落信組番高修理市文記

山書院若山若舟組

二名

城

織部頭

後大前見

寛政九年七月廿日行渡書約形書其後
にて馬川渡書免其て同月廿日書申其
二名養令其て編り

寛政九年七月廿日行渡書約形書其後
にて同月廿日書申其て同月廿日書申其
事其て寛政九年七月廿日行渡書約形書其
列して書取其て編り

文化九年二月廿三日
法外身村為四月廿七日
年辰之と協方

文化九年四月廿七日

同年五月十六日

寛政八年五月廿七日

天明八年九月廿七日

由書院南内藤野守組 于次 角南虎節團長

角南虎節團長
書院南内藤野守組

寛政十一年六月廿七日

享和三年七月廿七日

寛政九己年寅月廿日

天明六年十月廿日

所書院書内橋田安齋

整齊信子

書信組

千七十一

三宅正信

六

列して時服を賜ふ所志を以て母の行
文化之旨年六月七日後兩寺後行にて
賜物と爲す

文化の在年四月廿五日寺後胎の社に
列して時服を賜ふ明の十日嘗中に
百と爲す其全と爲す

文化の在年四月廿五日又寺事有て時服
と賜ふ明の十日嘗中に百と爲す其全と
賜ふ

文政三年四月廿五日又寺事有て時服
と賜ふ明の十日嘗中に百と爲す其全と
賜ふ

寛政九己年所月廿日

安永九年介百通月

中書院書内藤中斐条組百後 松井七左衛門田楽

寺内百通養子
若狭組山田勘定田楽

同日書院書内藤中斐条組百後

同年七月廿七日寺後胎の社に

列して時服を賜ふ明の十日嘗中に

百と爲す其全と爲す

文化三年四月廿五日又寺事有て時服

と賜ふ明の十日嘗中に百と爲す其全と

賜ふ

文化元年八月廿六日
因月十日
文化元年八月廿六日
因月十日

寛政九年七月九日

天明元年七月九日

清書院書目藤田氏家藏
山出公庫有清

山出公庫有清
山出公庫有清

寛政九年正月

天明元年正月

天保元年正月

天保二年正月

山内院書目録

寛政十年年十月廿七日

中書院書内藤進身組 三浦 三藏 政先

東山田中唐澤御馬守政春三男政先

後壬三〇六

政先身内

寛政十一年十月廿七日御村御免内り

御物之御り

同年九月御村御免内り村御免内り

御物之御り

寛政十一年十月廿七日御村御免内り

御物之御り

寛政十一年十月廿七日御村御免内り

瑞物延と物

享和三年三月廿一日浦村清定より瑞物延と
物

国事十月廿六日浦村清定より物延と
物

国事十月廿六日浦村清定より物延と
物

文化元年三月廿一日草鹿清定より物
延と物

国事十月廿六日浦村清定より物延と
物

文化元年三月廿一日草鹿清定より物
延と物

国事十月廿六日浦村清定より物延と
物

文化元年三月廿一日草鹿清定より物
延と物

文化元年三月廿一日草鹿清定より物
延と物

文化元年三月廿一日草鹿清定より物
延と物

寛政十一年八月廿一日

津波組組頭藤原清房
三右衛門 出立 三右衛門 定永
後十一年八月

寛政十五年八月廿日

中書院書内藤中斐守組

栗河津組格推長守組初解向被忠類

後改之備

同日原末武曾依福り勢行り何依止

給小伝云々

寛政十一年分女言

中書院書本大系組 子名 三枝士家清守尚

左系本系本放
弟書止書信組三田中書院



